

ベビユニバースの開発成功事例その10：



(画像はイメージ)

インフォグラフィック自動化ツール開発

「インフォグラフィック」という言葉をお聞きになったことはあるだろうか。

「データを視覚的に分かりやすい形で表現したinformation+graphicsという意味の造語」である。どのようなものがそれに当たるかというと、実際のグラフは更に複雑となるが画像のようなイメージだ。

国内トップの大手ニュース配信会社から、この開発のお話が来たのは20年以上前だったと記憶している。

(守秘義務があるので、詳細は避けるが、)

日本国民にとって大切な行事である国政選挙とは「衆議院選挙&参議院選挙」を指す。この国政選挙の開票結果を、インパクトのあるわかりやすい「インフォグラフィック」にして、主に翌日の新聞に向けて配信をしているのが、この大手ニュース配信会社だ。

当時、国政選挙が行われると開票後、日本全土から次々と集まってくる集計結果を数十人ものグラフィック制作専門の精鋭スタッフが、手作業でグラフに反映させていた。

ただ精鋭スタッフと言えど、このグラフの作成には多大な時間がかかる。なぜなら、少しのミスも許されないからだ。

複雑なグラフも全て計算してから結果を反映させなければならず、かといって十分な時間があるわけではなく、選挙翌日の朝刊の「締め切り時間」には当然間に合わせなければならないのだ。

そこで我々に課せられた課題は2つ。

「1 グラフあたり数秒の生成時間」と「絶対にミスのない印刷原稿データの自動化」だった。生成時間についてはコンピュータを使えば問題なかったが、絶対にミスのない印刷原稿データとは、データ内に配置されているグラフの数値に誤りが無いというだけでなく、「印刷原稿データ」全体としての高いクオリティが求められた。

さすがこの大手ニュース配信会社が求める印刷原稿データのクオリティは半端なく、数々の細かい規定が決まっており、それら全てをクリアしなければならない。

苦勞をして何とか無事納品を終えた。

それ以来、国政選挙の投票日当日、我々は投票を済ませてからこの会社のサポートに向かう。当日の夕刻から解放される翌日のお昼まで「ミスをしないでくれ」と我々は神とコンピュータに祈っている...